


マニラ首都圏

CCIDA16 |  METRO MANILA Utilizing Information Vaccination PLEASE CLICK THE BOX OF RIGHT TOP CORNER TO MAXIMIZE QUESTION WINDOW.

MEDIA PLAYER

PHAPCares Initiative on Covid19
Dr. Maria Rosarita Q. Siasoco
Executive Director

DOWNLOAD

- PHAPCares Initiative on COVID19
- 新型コロナウイルス感染症に対するPHAPケア財団での取り組み

Q1. Regarding slide 4

(Q) IATF, the Inter-Agency Task Force, is a structure built to deal with infectious diseases related measures. Was it organized after the pandemic became an emergency situation, or is it a system that is normally in place, connecting with local governments, making adjustments, etc.?

Q2. Regarding slide 5

(Q) The explanation in the slide said, "IATF declared Metro Manila to Alert Level 2." Is the IATF in charge of judging alert levels for the entire country, or is there leeway for individual localities to have their own standards for declaring alerts and deploying measures?

(A) The IATF has the authority to declare alert levels and

Q3. Regarding slide: 10,11,12

(Q) As of January 25, about 50% of people in the Philippines had at least one vaccination. What factors are preventing vaccination rates from expanding? Are any measures being considered to deal with this situation?

(A) One of the reasons is vaccine hesitancy triggered by fake news and spread in the social media.

「新型コロナウイルス感染症に対するPHAPケア財団での取り組み」

新型コロナウイルス感染症に対する PHAPケア財団での取り組み

Dr. Maria Rosarita Q. Siasoco
PHAP (フィリピン医療・ヘルスケア協議会) 常任理事

こんにちは、よろしくお願いいたします
ます。

PHAPケア財団のRosarita Siasocoです。
PHAP(フィリピン医療・ヘルスケア協
議会)では、SR(社会的責任)部門を統
括しています。

世界的なCOVID-19の流行も2年目とな
りました。



世界の概況

- 昨年2020年の3月11日に、WHOは新型コロナウ
イルス感染症がパンデミック（世界的流行）状
態であると宣言。
- ロックダウン（都市封鎖）および予防対策が実
施された。
- ワクチンの製造・配布が行われた。
- WHOによる地域別状況では、南北アメリカで最
大の感染者数が確認され、次いで欧州、東南ア
ジア、地中海沿岸東部、太平洋西部、アフリカ
の順であった。
- 様々な変異株が発見されたが、最新のものはオ
ミクロン変異株である。
- 2021年12月初旬の時点で確認された新型コロナ
ウイルス感染者数は約2億6,600万人であり、こ
のうち死亡が確認されたのは約530万人である。
またこれまでのワクチンの総接種回数は約80億
回である。



WHO region	Genotype	Genetic distance	Number of cases	Genetic distance	Documented cases	Date of designation
Africa	B.1.1.7	GRY	281 (4%)	+8.434K +5.452G	United Kingdom, Sep-2020	18-Dec-2020
Asia	B.1.351	GRY	201 (3%)	+8.119F	South Africa, May-2020	18-Dec-2020
Europe	P.1	GRY	204 (4%)	+5.689H	Brazil, Nov-2020	11-Jan-2021
SE Asia	B.1.1.7.2	GRY	214, 211, 213	+9.417N +8.484K	India, Oct-2020	VOC: 4-Apr-2021 VOC: 11-May-2021
Micro	B.1.1.629	GRY	21K	-	Multiple countries, Nov-2021	VLM: 24-Nov-2021 VOC: 28-Nov-2021

世界的なパンデミックの2年目です。
国境での出入国管理が制限される中、
引き続きワクチンの提供が行われ、
全世界での接種回数は80億回を超え
ています。

地域別にみると、南北アメリカで最
大の感染者数が確認され、次いで欧
州、東南アジア、地中海沿岸東部、
そして

フィリピンを含む太平洋西部、ア
フリカという順番になっています。

12月には新しい懸念事項が現れまし
た。

オミクロン株です。

新型コロナウイルスの感染者数は2億
6,600万人を超え、530万人以上の方
が亡くなっています。

終わりの見えないパンデミックの影
響がうかがわれます。



フィリピンの概況

- WHOの国別データによれば、感染者数リストでは米国が最多となり、以下インドが続き、本リストの最後はオランダとなっている。
- フィリピンでは283万人の感染者が確認され、48,210人の死亡が報告されている。
- 確認された感染者のうち約280万人は既に回復した。
- 地域別で感染者数が最も多いのは、マニラ首都圏、カラバルソン地方、中部ルソン地方、中部ビサヤ地方、西ビサヤ地方であった。
- 州および市のレベルでは、感染者が最も多かったのは、ケソン市、カビテ州、ラグナ州、リサール州、ブラカン州である。これらの地域はバブル（隔離地域）に指定された（マニラ首都圏および他の4州）。

国	感染者数(百万人)	死亡者数(千人)
米国	48.1	777
インド	34.6	468
ブラジル	22.1	614
英国	10.1	145
ロシア	9.34	265
トルコ	8.7	76.04
フランス	7.59	120
ドイツ	5.74	101
アルゼンチン	5.32	117
スペイン	5.13	87.96
コロンビア	5.06	128
イタリア	4.98	134
インドネシア	4.26	144
メキシコ	3.88	294
ウクライナ	3.57	89.31
ポーランド	3.46	82.61
南アフリカ	2.95	89.77
フィリピン	2.83	48.21
マレーシア	2.61	30.24
オランダ	2.56	19.22



このCOVID-19感染者数のリストでは、米国がトップですが、フィリピンも上位20か国内に位置しています。フィリピンでは283万人以上が感染し、4万8,000人以上の方が亡くなりました。

今私が申し上げた数値は、このレポートを準備した時のもので、現時点ではさらに増加している可能性があります。

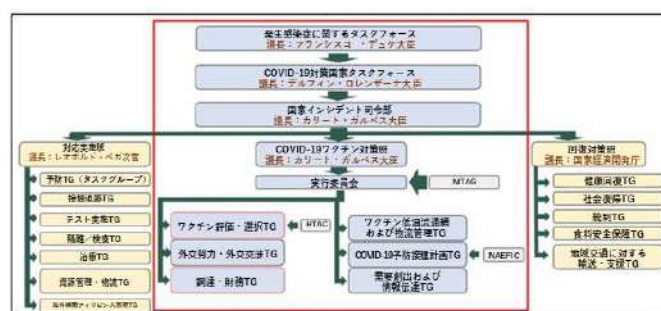
感染者数が最も多い地域はマニラ首都圏で他の地域がそれに続いています。

マニラ首都圏では、感染者数の最も多い地域は人口密集地に集まっています。

マニラ首都圏のケソン市、それからカビテ州、ラグナ州、リザール州、ブラカン州などです。これらの地域は現在、「バブル地域(隔離地域)」に指定されています。

フィリピンの概況

- 既設のフィリピン省庁間タスクフォース(IATF)は、国内の感染症関連事案に対応するために、2014年フィリピン大統領令第168号に基づき設置されている。新型コロナウイルスワクチンについては、IATF-EID（新型コロナウイルス感染症に関する省庁間タスクフォース）が、国内レベルでの調整協議会として機能することとなる。
- 新型コロナウイルス感染症に対する国家タスクフォースは、国内対策の実施面を監督する。
- 現在、フィリピン国内でのワクチン接種回数の合計は約9,400万回分となっている。
- ワクチン接種のうち約1,840万回分は首都地帯（マニラ首都圏）で行われた。



フィリピンでは大統領令により、省庁間タスクフォース(IATF)が設置され、国内の感染症関連事案に対応しています。

COVID-19ワクチンについては、IATFが国内での調整協議会となり、COVID-19対策国家タスクフォースが国内での対応状況を監督しています。

現在までに、フィリピン中の国民に対して、約9,400万回のワクチン接種を行いました。マニラ首都圏では、約1,840万回の接種を行いました。それは、この地域がここ数か月で最も感染急増の影響を受けた場所であるためです。

フィリピンで接種に用いるワクチンはアストラゼネカ、ジョンソン・エンド・ジョンソン、モデルナ、ファイザービオンテック、シノバック、スプートニクです。

ワクチンは政府が提供し、政府と民間セクターから発送されます。

マニラ首都圏

- マニラ首都圏は17の市と1つの町で構成されている。
- マニラ首都圏で確認された感染者数は861,000人。うち847,700人は回復し、10,800人の死亡が報告されている。
- 2021年の前期および中期では、マニラ首都圏はレベル3状態とされ、感染者が増加する市では都市封鎖が実施された。
- 感染者が減少傾向であることから、IATFではマニラ首都圏を警報レベル2と宣言した（警報レベル2：感染伝播が少なくかつ減少傾向であり、医療の利用が少ない、あるいは感染者数が少なくかつ減少傾向である）。
- ワクチン接種への戸惑いは依然として見られるが、政府および民間セクターがそれぞれの持ち場でワクチン接種の意義を訴えている。



ご存じのように、マニラ首都圏は17の市と1つの町で構成されています。マニラ首都圏での感染者数は、86万1,000人を超え、1万800の方が亡くなっています。

2021年の初めから半ば頃まで、マニラ首都圏の警戒レベルはレベル3で、感染者数が増加している地域では、厳しいロックダウンが実施されました。

その後、デルタ株が急増してからは感染者数が減ったため、IATFはマニラ首都圏の警戒レベルをレベル2に変更しました。

警戒レベル2が発令される地域とは、感染の伝播が少ない上、減少傾向であり、医療の利用が少ない地域であるか、感染者数が少なく減少傾向である地域です。

人々にワクチン接種への戸惑いはまだ見られますが、政府と民間セクターが協力し、ワクチン接種の大切さを伝えるよう取り組んでいます

PHAPケア財団の取り組み

他の国と同様に、フィリピンCOVID-19という、前例のない健康危機の渦中にあります。

驚くほど多くの医療従事者が、陽性の判定であるか、検疫隔離中の状態です。

公立病院も民間病院も力の限り働いてはいますが、病床数は限度を超え、医療品不足の中で稼働している状態です。

「私たちは休まない」キャンペーン

最前線の医療従事者の方たちに

報いることができるまで「私たちは休まない」



- ・ フィリピンは、新型コロナウイルス感染症により、前例のない急増する健康危機を経験した。
- ・ 膨大な数の医療従事者が検査結果が陽性であったり、あるいは隔離中の状態である。公立病院も民間病院もその能力一杯に働いているが、病床数の限度を超え、医療用品不足の中で稼働している。
- ・ このキャンペーンの目的は1,000万ペソの資金を募り、新型コロナウイルス感染症患者用に指定された紹介病院を含む、少なくとも10の病院の現場で使う医療用品が調達できるようにすることである。
- ・ このキャンペーンの起爆剤となるよう、PHAPケア財団は、個人用防護具（PPE）の調達用として創設資金100万ペソの寄付を約束した。



これに対応するため、PHAPケア財団では「私たちは休まない」キャンペーンを開始しました。

その目的は、1,000万ペソ(約20万500ドル)の資金を募り、10の病院ですぐに必要な医療品の調達に役立てることでした。

これらの病院にはCOVID-19の患者の受診先に指定された病院も含まれています。

PHAPケア財団はキャンペーンの起爆剤として、個人用防護具(PPE)の調達用に100万ペソ(約2万ドル)の寄付を約束しました。

「私達は休まない」キャンペーン

- ・ このキャンペーンは当初の「10の病院」という目標を超え、38か所の公立・民間病院、研究機関、診療所、NGOにまで拡大していった。



寄付の受取り団体

セブ医師病院	リサール記念医療センター
ダグファン市新型コロナウイルス検査センター	ロガシアーノ・メルカド記念医療センター
平和監舟病院	サン・ロレンソ・ルイス女性病院
ビナン市保健局	サンタアナ病院
パター総合病院・医療センター	ワールドシティ医療センター
東通り医療センター	大統領報道官事務所
財団法人連盟	伸介者マリア記念病院
マニラ首都圏開発庁	ホセ・N・ロドリゲス博士記念病院
法人アライザ管理事務所	ガット・アンドレス・ゴニファシオ病院
フィリピン総合病院	国立腎・移植研究所
フィリピン沿岸警備隊補助機関	ムンティルバ病院
サント・トマス大学病院	フィリピン国家警察駐在所
フィリピン心臓センター	サン・ラザロ病院
ラウニオン州衛生局	ビクトリー・アート研究所
ピンセンテ・ソット記念医療センター	エミリオ・アギユナルド大学医療財団
コーシー不妊治療クリニック	ジーサス・C・デルガド博士記念病院
精密医学診断センター・先進生殖技術	ビクトリアノ・ルナ医療センター
筋骨格科学センター・アジア支所	サン・マルティン・デ・ボレス慈善病院
ラウニオン医療センター	ファベラ記念病院

キャンペーンは全国に拡がり、計38か所もの公立病院／民間病院／研究機関／診療所／NGOに善意が届けられました。

「私たちは休まない」キャンペーン

寄付金は全国で150万世帯以上の家庭と、155か所を超える医療施設に役立てられた。

PHAPの会員は
新型コロナウイルス感染症対策に
1億2,000万ペソを寄付

この寄付金はフィリピン全土で活用



150万世帯以上の家庭



155か所を超える医療施設

フィリピン医薬・ヘルスケア協議会 (PHAP) およびPHAPケア財団に所属する、誠実な医薬品企業・ワクチン供給企業は、企業の社会的責任を果たすべく、国内の新型コロナウイルス感染症対策に、資金面・物品面での支援を提供してきた。



寄付の受取り団体は、公立病院、民間病院、慈善施設、政府機関、非政府機関 (NGO) など多岐にわたる。

嬉しいことにこのキャンペーンでは、当財団の会員企業からもサポートをいただきました。パンデミック対策として、PHAPの会員企業から、合計で1億2,000万ペソ(約240万ドル)の寄付があり、このパンデミックに影響を受けた全国の155か所の医療施設と150万世帯の人々に届けられました。





寄付を行う他に、フォーラムも開催しました。正確な情報を提供し、ワクチンへの誤解を正して、ワクチン接種への信頼感を高めました。PHAPケア財団では、保健省・労働雇用省、メトロポリタン・マニラ開発局と協力し、チームによるオンライン・フォーラムを立ち上げました。テーマは「ワクチン接種への戸惑い：生活への影響／国家への影響」です。



このフォーラムでは、Facebookでのライブ配信に加えて、より多くの人に情報が届くよう、全国メディアとの連携も行いました。緊急時の情報へのアクセス率を高めることがこのフォーラムの使命でした。私たちは正しい情報を適切な時に提供することが、命を救う手助けになると信じています。発表では、大切な3つのメッセージを伝えました。

ワクチン接種への戸惑い：生活への影響 国家への影響

オンライン・セミナー

- 1：ワクチンは安全です。ワクチンメーカーは、保健当局の科学的で厳格な手続きを順守し、皆さんに新型ワクチンを届けています。
- 2：ワクチンには効果があります。認可されたワクチンはどれも有効レベルを超えるよう処方されており、接種済みの方を予想されるウイルスから守ります。
- 3：ワクチンはウイルスを止める手段であるだけでなく、「ノーマル」な生活に戻る最良の方法でもあります。ワクチンを接種した人が増えれば増えるほど、地域にウイルスが拡がるのを防止できます。

私達が伝えたいこと

BIDA SOLUSYON Sa COVID19
(私たちの新型コロナウイルス感染症対策)

1. マスクの着用
2. 手をしっかり洗う
3. ソーシャルディスタンスを保つ
4. 正しい情報を知る

こうしたメッセージは保健局の内容に合わせてました。活動もすべて政府の指令や、健康基準に準拠するようにしています。パンデミックの間も、当財団は全国を回り、災害に遭った人々の支援活動を続けています。火山の噴火や最近では、400名の犠牲者を出したスーパー台風「ライ」などへの対応です。

ご清聴ありがとうございます

どうぞお気をつけてお過ごし下さい

取組みを発表する機会をいただいたことに感謝申し上げます。
パンデミックとの戦いなど色々な課題は、今後も人々の暮らしや健康に影響していくことでしょう。
ご清聴ありがとうございます。
どうぞお気をつけてお過ごし下さい。



質疑応答(マニラ)

Q1.

省庁間タスクフォースである IATF は、国内の感染症関連事案に対応するために設置された組織とあるが、今回のような非常時に結成され活動する組織なのか、常設の組織として普段から地方自治体との連携、調整を行っている組織なのか。

A1.

省庁間タスクフォース (IATF) は、2014 年にベグニノ・アキノ 3 世大統領が発令した大統領行政命令第 168 号により設置されました。IATF が設置された目的は、フィリピンにおける感染流行の兆しに関する評価・監視・封じ込め・管理・予防を行うことにあります。同タスクフォースは、状況の必要性に応じて、政府機関、地方自治体、非政府組織、民間セクターに対して支援を依頼することがあります。IATF は、2020 年 1 月に、COVID-19 感染拡大の脅威に対応するため招集されました。

Q2.

スライド中の説明に「IATF がマニラ首都圏をアラートレベル 2 と宣言した」という記載があるが、全国的なレベル判断を IATF が統括しているのか、それとも地方自治体も独自のアラートレベルとそれに基づく施策展開を行う余地はあるのか。

A2.

IATF の権限には、アラートレベルを宣言することのほかに、国内各地で実施される可能性のある既存の規制を評価することがあります。IATF では国家機関や地方自治体の首長の報告書に基づいて宣言を行っています。首都圏では、マニラ首都圏評議会が、症例数の増減や地元の病院の収容能力に応じて、アラートレベル宣言に対する状況 (ステータス) の提言を行っています。

Q3.

警報レベルを 5 段階で分類しているが、それぞれのレベルに移行する感染状況や医療提供体制に係る具体的な基準はあるのか。

A3.

IATF は、マニラ首都圏協議会や地方の州・市・自治体の最高責任者たちと共に、感染者や医療の利用状況に基づいて、さまざまなレベルを確認しています。

警報 (アラート) レベル 1: COVID-19 の感染伝播が少なく減少傾向であり、合計病床利用数や ICU の利用率が低く減少傾向である地域。

警報レベル 2：COVID-19 の感染者数が少なく減少傾向であり、医療の利用が少ない、または感染者数は少ないが増加傾向であり、かつ利用率が増加傾向である地域。

警報レベル 3：感染者数が多く、かつ／または増加傾向であり、医療の利用が増大している地域。

警報レベル 4：感染者数が多く、かつ／または増加傾向であり、医療の利用が既に高いレベルとなっている地域。

警報レベル 5：感染者数が警戒すべき状況にあり、医療利用率が危機的である地域。

Q4.

フィリピンのワクチン接種率（少なくとも 1 回接種をした人の割合）は 1 月 25 日時点で約 5 割だが、接種率の向上を妨げている要因は何だと考えているか、またそれについての対策は何を検討しているか。

A4.

その理由のひとつは、ワクチン接種への戸惑いです。これはフェイクニュースがきっかけとなり、SNS で拡がりました。

2021 年 4 月から 5 月にかけて実施された全国調査によると、35%がワクチン接種を受けることに不安を感じており、また 33%が「自分は接種しない」と回答していました。COVID-19 の接種に関して確信が持てないとか、気が進まないという回答者が挙げた理由のトップとなったのは副反応（side effects）への恐怖です。こうした感情は、2015 年には 93%がワクチンは大切なものだということに対して「非常にそう思う」と答えていたフィリピン人のワクチンへの信頼感が、2018 年には 32%にまで激減したという、ある国際的な調査を反映したものでした。

IATF は地方自治体や民間セクターと協力して、国内でのワクチン接種の普及を支援しています。PHAP ケア財団では、昨年末にワクチンへの戸惑いを根絶するための大規模なフォーラムを開催しました。これまでに多くの方がワクチン接種を受けるよう希望しておられますが、これは特に今年初めに多くの感染例が報告されたオミクロン変異体の予防において顕著であるようです。